

令和5年度県北オープン

国語

受験上の注意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 検査時間は、50 分間です。
- 3 大きな問題は全部で5問で、表紙を除いて17 ページです。
また、別に解答用紙が1枚あります。監督者の指示に従い、解答用紙のきめられた欄に氏名、フリガナ、中学校名、受験番号を書き、受験番号の下のマーク欄にマークしなさい。
- 4 監督者の「始め」の合図があったら、試験を始めなさい。
- 5 答えはすべて、最も適当なものを一つ選んで、解答用紙のきめられた解答欄にマークしなさい。
例えば、大問 $\boxed{1}$ の1の(1)の問いに対してアと解答する場合は、次の(例)のように、 $\boxed{1}$ の1の(1)の解答欄の ア を塗ってマークする。

(例)

$\boxed{1}$	解答欄
1 (1)	<input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>

- 6 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、筆記用具をおきなさい。

1

次の1から7までの問いに答えなさい。

1 次の——線の部分はどう読むか。

- (1) 友人は後輩から慕われている。
 ア いと イ こ
 ウ した エ つの
- (2) 恩赦を与える。
 ア おんしゆく イ おんけい
 ウ おんせき エ おんしゃ
- (3) この件は委員会に諮る必要がある。
 ア もと イ はか
 ウ かけ エ たて
- (4) 図の中の一点を凝視する。
 ア こし イ ぎようし
 ウ ぎし エ じゆうし
- (5) 兄の描いた絵が佳作に選ばれた。
 ア かさく イ けつさく
 ウ けいさく エ かいさく

2

次の——線の部分を漢字で書いたとき、同じ漢字になるものはどれか。

- (1) サイ限のない熱意。
 ア 定期的に開サイする。 イ サイ発防止に取り組む。
 ウ 最も光サイを放つ作品。 エ 実サイに持っている力量。
- (2) データのセイ合性を確認する。
 ア 相手に先セイ点を与える。 イ 参セイ権が付与される。
 ウ 機械の保全セイ備をする。 エ 五輪のセイ火ランナー。
- (3) 新しいキ画を提案する。
 ア キ業間の競争が激しい。 イ 嚴重なキ則に従って行く。
 ウ 衛星をキ道に乗せる。 エ キ成の音楽を引用する。
- (4) 大学のエン革を調べる。
 ア 鉄道エン線に田畑が多い。 イ エン側で日光浴をする。
 ウ 味方をエン護する。 エ 盛大に祝エンを開く。
- (5) 妹はスべり台で遊ぶのが好きだ。
 ア ヤワらかい食感の加工肉。 イ 英語をナメラかに話す。
 ウ ユルい下り坂が続く。 エ ツヤやかで健康な髪。
- 3 「来る途中で君の弟らしい人を見かけた。」の——線の部分と文法的に同じ働きのものはどれか。
 ア スポーツマンらしい正々堂々としたプレーをしよう。
 イ 部屋にはかわいららしい洋服を着た子どもたちがいた。
 ウ かばんの持ち主らしい人が、交番を訪ねてきたよ。
 エ となりの家の前まで掃除してしまうなんて君らしいね。

4 次の文のうち、慣用句の使い方が適切なものはどれか。

- ア 儉約したつもりだったが、今月は足がついてしまった。
- イ 予想だにできなかった展開に思わず目からうろこが落ちた。
- ウ 目から鼻へ抜けるような君の理屈には納得できない。
- エ 彼の話には根拠がないから、眉に唾を塗って聞くべきだ。

5 次の□に入る適切な表現はどれか。

上田先生は、祖母の描いた絵をときどき見に□。

- ア おこしになられます
- イ いらっしゃいます
- ウ 参られます
- エ お伺いになります

6 次の熟語のうち、異なる構成をもつものはどれか。

- ア 疑似
- イ 仰天
- ウ 克己
- エ 宣誓

7 次の式子内親王が詠んだ和歌の情景や心情を説明したものとして適切なものはどれか。

百首歌たてまつりし時、春の歌

式子内親王

山ふかみ春とも知らぬ松の戸にたえだえかかる雪の玉水

ア 山の植物の緑が徐々に深まってきたことで、春が来たことに気づかされたという驚きに、雪どけの雫がきらきらと輝く情景を見たときの細やかな感動を重ねて表している。

イ 旅の道中の山奥で、冬と春が共存する貴重な情景を十分に堪能できたという充実感と、そこで見かけた粗末な家の住人にしみじみと思いを馳せる心情を表している。

ウ 深山幽谷の地にある屋敷で心静かに過ごしながら、雪どけの雫でわずかに濡れた扉から春の到来を一人ひっそりと感じ取るといふ、静かで風情のある情景を表している。

エ 春の到来にも気づかないほど奥深い山家のわびしさに、雪どけの玉のような雫が春の気配を感じさせるといふ清らかな近景を合わせ、美しい絵画のような情景を表している。

2 次の文章を読んで、1から7までの問いに答えなさい。

人は、慮⁽¹⁾りなく、いふまじき事を口とくいひ出だし、人の短きをそしり、したる事を難じ、隠す事を顕⁽²⁾はし、恥がましき事をただす。これらは、すべてあるまじきわざなり。われは何となくいひ散らして、思ひも入れぬほどに、いはるる人は、思ひつめて、憤⁽³⁾り深くなりぬれば、はからざるに、恥をも与⁽⁴⁾へられ、身の果つるほどの大事にも及ぶなり。怒⁽³⁾みの中の剣⁽⁴⁾は、さらだにも恐るべきものぞかし。また、よくも心得ぬ事を、あしざまに難じつれば、かへりて身の不覚あらはるるものなり。大方、口かろき者になりぬれば、「それがしにその事な聞かせそ。」⁽⁵⁾かの者にな見せそ。」⁽⁶⁾などいひて、人に心を置かれ、隔てらるる、かたがた人の上を慎み、多言を止むべきなり。⁽⁷⁾

〔十訓抄〕から

- (注1) 口とく＝軽々しく。
(注2) 身の果つる＝身が破滅する。
(注3) 怒み＝笑み。
(注4) あしざまに＝いかにも悪いように。
(注5) それがし＝誰それ。
(注6) 心を置かれ＝用心され。
(注7) かたがた＝あれこれ。

1 慮⁽¹⁾り とあるが、意味として適切なものはどれか。

- ア 一方的な思い
イ つらい体験
ウ 深い考え
エ 相談すること

2 あるまじきわざなり とあるが、その理由として適切なものはどれか。

ア 言われた人が腹を立てて、言った人に関する悪い評判を広めようとするから。

イ 言われた人が言った人の思っていた以上に深く悩み、傷つくかもしれないから。

ウ 言われた人が言った人を軽蔑し、二度と窮地を救おうとしてくれなくなるから。

エ 言われた人が奮起して偉業を成し遂げ、結局言った人が惨めな思いをするから。

3 はからざるに、恥をも与へられ を現代仮名遣いに直したとき、正しいものはどれか。

- ア わからざるに、わじをもあたえられ
イ はからざるに、はぢをもあたえられ
ウ わからざるに、はじをもあたえられ
エ はからざるに、はじをもあたえられ

4 さ⁽⁴⁾らで とあるが、意味として適切なものはどれか。

- ア 自分に欠点がなく
- イ 自分に悪気があつて
- ウ 自分に美点がなく
- エ 自分に善意があつて

5 ⁽⁵⁾その事な聞かせそ とあるが、現代語訳として適切なものはどれか。

- ア その事は聞かせたのか
- イ その事を聞かせてくれ
- ウ その事は聞かせたぞ
- エ その事を聞かせるな

6 (6)に当てはまる言葉として適切なものはどれか。

- ア 口惜しがる
- イ ゆゆしがる
- ウ 様悪しがる
- エ わびしがる

7 筆者の主張として適切なものはどれか。

- ア 相手が深刻な思いで話そうとしているのに耳を傾けようとせず、自分だけが知っている秘密や情報を話すのは、自分の価値を下げる行為であり恥ずかしく思われるのでやめるべきだ。

- イ 軽率なおしゃべりは他人から警戒されるものであり、ろくに知らないことを非難したりすれば、それはかえって自分の愚かさが暴露されることにもなるので慎むべきだ。

- ウ 当人のいないところでその人の行為や考えを非難したり、秘密をさぐったりする行為は、遅かれ早かれ誰かが言いふらし、当人の知るところとなるのでするべきではない。

- エ 人からの思いがけない批判や陰口に対しては、言い返さずその悔しさを糧^{かて}にして自分を磨きあげることで相手を見返せばよく、相手の言葉にいちいち反論すべきでない。

3

次の文章を読んで、1から7までの問いに答えなさい。

冬をどう過ごすか。植物にとってもこれは重要な問題である。冬の時代を確実に生き抜いたものだけが、勝者を礼賛らいさんするかのような、うららかな春の光を浴びることができなのだ。植物はいったいどうやって冬を過ごしているのだろうか。ここでは道端の草にスポットを当てて見てみることにしよう。

私たちは寒いときどうするだろう。木枯らしの吹くさむーいさむーい冬の朝、多くの人が背中を丸めて前かがみの姿勢で歩いている。これは、寒い外気に当たる部分をできるだけ減らす姿勢である。**a**、表面積を小さくしているのだ。体積当たりの表面積がもつとも小さい形は球である。「猫はコタツで丸くなる」と歌にあるように、寒さを防ぐためには、球形をして表面積を小さくするのがもつともいい。

b、そうは言っても植物がネコのように丸くなっているわけにはいかない。植物が生きていくためには太陽の光が必要だ。**c**、太陽の光を受けようとすれば、どうしても葉を広げなければならぬのだ。しかし、葉を広げれば寒さをまともに受けてしまう。かといって、葉を丸めていけば光は受けられない。寒さを避けながら、太陽の光を受ける。この一見、矛盾(1)する条件を満たすためには、どのような妙案があるのだろうか。

ドレスにつけるバラの花のような形の胸飾りをロゼットという。ロゼットとはバラの花を意味するローズに由来する言葉である。うつむきながら、凍こてついた道を歩いていると、まるで

バラの花びらのように、地面の上に**(2)**状に葉を広げた植物を見つけることができるだろう。このスタイルこそが草本植物(注) とうほんの有名な冬越しのスタイルである。胸飾りのロゼットに似ているため、この冬越しスタイルもロゼットの名で呼ばれている。

ロゼットの茎はごくごく短く、ほとんどないように見える。その短い茎に葉を密につけて、地面にぴったりとつけているのである。外気に当たる面積は葉の表側のみ。葉の裏側は暖かな地面で守られている。外気に当たる面積は最低限なのだ。そして、葉は無駄に重ならないように**(2)**状に広げ、最大限の効率で光を受けるのである。

このロゼットは、冬越しのスタイルとして相当機能的なのだろう。さまざまな植物がこのスタイルを選択し、見かけはよく似たロゼットを作つて冬を越している。キク科のタンポポもアブラナ科のナズナも、アカバナ科のマツヨイグサも、オオバコ科のオオバコも。およそ花が咲けば似ても似つかないさまざま種類の植物が、冬の間は、見かけがそっくりなロゼットを作つているのだ。おそらくは試行錯誤の上、それぞれの植物が進化して同じ形に行き着いたのだろう。

⁽³⁾ 光を受けながら寒さを避ける理想的な形、ロゼット。しかし、ロゼットの秘密はそれだけではない。

タンポポコーヒーというものをご存知だろうか。これはタンポポの根っこから作るコーヒーである。家庭でも作ることができるのでぜひ試してみたい。タンポポコーヒーの作り方は決して難しくないが、タンポポの根を手に入れるのは少し大変で

ある。なにしろタンポポの根っこを掘ってみようとしても、掘り出すのは簡単ではないのだ。実はタンポポのロゼットの下には、ゴボウのような太くて長い根っこが地面の奥へ伸びているのである。

このゴボウを細かく切って干したものを焙煎(注2)ばいせんするとタンポポコーヒーができる。ほろ苦い香りに根っこを掘りあげた苦労も手伝って、なんとも言えない味わい深い一杯となるだろう。

実は、この太くて長い根っここそがロゼットの秘密である。ロゼットは、ただ地面にひれ伏して寒さに耐えているだけではない。いっぱい広げた葉に受けた太陽エネルギーで光合成を行い、地面の下の根っこに蓄えていたのだ。

冬のさなかでの光合成。しかし、意外にもその能率は悪くないという。

光合成の能力は酵素による化学反応なので、気温が低くなる
と光合成の速度は遅くなる。夏の太陽の下での光合成に比べ
ると生産性の低下は免れないのだ。しかし、気温が高い夏は光合
成量も多いが、呼吸の量も激しくなる。せっかく稼いだ栄養分
を呼吸によって消費してしまうのだ。収入も多いが、支出も多
いため生活は言うほど楽ではない。働いた割には分が悪いとい
うことになる。

一方、冬はどうだろう。確かに光合成量は少ないが、気温も
低いので呼吸の量も抑えられる。少ない収入でも支出も少ない
ので、コツコツ働けば働いた分だけ手元に残る。利益率は悪く
ないのだ。

傍目はためには寒風を耐え忍んでいるだけに見えるロゼットが、実

はせつせと光合成を行って根に栄養分を蓄えているのである。

冬の寒さを乗り切るもつとも安全な方法は種子である。なに
も冬の寒いときに地面の上に葉を広げる必要はない。ヘビやカ
エルと同じように暖かな地面の下で冬越しをしていれば、寒さ
もやり過ごすことができる。

それでもなお、地面の上に葉を広げて頑張ろうというロゼッ
トがある。なぜだろう。

春の来ない冬はない。やがて、つらかった冬も終わり、暖か
な季節が訪れる。そのとき、じつと耐え忍んでいたかに見えた
ロゼットの株たちは、蓄えたエネルギーで茎を伸ばし、一気に
花をつけることができるのだ。

土の中で安全に冬を越した種が芽を出したとしても、花を咲
かせるまでには相当の時間がかかる。これに対してロゼットた
ちは、春の訪れとともにいち早く、花を咲かせることができる
のである。しかも、冬の時代の頑張り⁴が、そのまま春の成功に
なる。寒さの中でたくさん⁴の栄養分を蓄えた株ほど、大きく成
長し、たくさん⁴の花を咲かせることができるのだ。

もし、冬がなかったとしたらどうだろう。ロゼットは他の植
物に先駆けて花を咲かせることができただろうか。冬があるか
らこそ、ロゼットを形成する植物は他の植物に対して優位な立
場に立つことができたのだ。そう考えると、ロゼット植物にとつ
て厳しい冬の時代はけっして耐え忍ぶものではない。成功する
ために不可欠な、勝負の季節なのである。

ロゼットこそ、冬の時代の究極の過ごし方。さあ、落ち込んだときは手足を投げ出して、ロゼットのように地面に寝転んでみることにしよう。

厳しい風はあなたに吹きつけることなくあなたの上を通り過ぎていく。体いっぱいを感じるのは太陽から降り注ぐ暖かな光だ。背中には大地のぬくもりが伝わってくる。そして、視界いっぱい広がるのは、あまりにも広く、あまりにも高く透き通った空の青だ。こうしていると、体の奥底から力が沸いてくるような気がする。もしかすると、これがロゼットの気持ちなのだろうか。

大の字になって寝転んでいるとき、誰かがこう言ったことがある。「僕らは今、地球を背負っているんだなあ」。大地に寝転ぶことは、宇宙空間で上下を逆にしてみれば、地球を背負っていることにほかならない。(5) わけではない。地球を背負う壮大な生き方、それがロゼットなのだろうか。

ロゼットは冬の寒さに逃げることなく、冬の時と向き合って生きる道を選んだ。そして、ついには冬の寒さを味方につけ、「成功のためになくはならないもの」にまでしたのである。冬の時代と言われるようになって久しいが、せめて私たちも、春に備えてしっかりとエネルギーを蓄えようではないか。ロゼットは知っている。春の来ない冬はないのである。

(蓮実香佑『植物』という不思議な生き方^{はすみこうすけ})から

(注1) 草本植物 季節が終わると上部が枯れてしまう植物。

(注2) 焙煎 水や油を使わずに、加熱乾燥させること。

1 本文中の a・b・c に入る言葉の組み合わせとして適切なものはどれか。

- | | | | | | |
|-----|------|---|-----|---|-----|
| ア a | つまり | b | そして | c | さらに |
| イ a | なぜなら | b | 例えば | c | しかも |
| ウ a | つまり | b | しかし | c | そして |
| エ a | また | b | しかし | c | しかも |
| オ a | なぜなら | b | 例えば | c | そして |

2 矛盾する条件⁽¹⁾ について、あとの (I)・(II) の問いに答えよ。

(I) 「矛盾」とあるが、この類義語として適切なものはどれか。

ア エビデンス イ ニッチ ウ ジレンマ

エ コミット オ リテラシー

(II) 「条件」とあるが、矛盾する二点を挙げたものとして適切なものはどれか。

- ア 実をつけることと寒さを避けること。
- イ 光を受けることと実をつけること。
- ウ 水分を吸収することと呼吸量を減らすこと。
- エ 呼吸量を増やすことと水分を吸収すること。
- オ 光を受けることと寒さを避けること。

3 二つの (2) に共通して当てはまる言葉として適切なものはどれか。

ア 直線 イ 半球 ウ 放射 エ 稲妻 オ 半円

4 ロゼットの秘密はそれだけではない について、あとの(I)・

(II)の答えとして適切なものはどれか。ただし、選択肢は(I)・(II)共通である。

(I) 「それ」の指す内容として適切なものはどれか。

(II) 「それ」以外の「ロゼットの秘密」として適切なものはどれか。

〈選択肢〉

ア タンポポの根っこから作られたコーヒーが味わい深いこと。

イ 冬に光合成を行って、根に栄養分を蓄えているということ。

ウ いろいろな植物が進化した結果、同じ形に行き着いたこと。

エ 植物が生きていくのに最も合理的なつくりをしていること。

5 寒さの中でたくさんの栄養分を蓄えた株ほど、大きく成長し、

たくさんの花を咲かせることができる とあるが、このことを

人間の生き方に置き換えて考えた場合、最も適切なものはどれか。

ア 何が必要で、何が不必要なのかを冷静に見極め、必要なことだけを選び取り、合理的に行動する。

イ つらく苦しい時期があっても安易にあきらめない忍耐力や頑張りで、自分の目標を達成する。

ウ 目指すべき地点を高いところに置き過ぎず、適当なところで妥協し、満足感を得るようにする。

エ 周囲の人間との関係を穏便に保ち、いざというときには助けを得られるような関係を築いておく。

6 (5) に当てはまる言葉として適切なものはどれか。

ア 地面を押し上げている

イ 地べたに張りついている

ウ 地下で眠っている

エ 地球に押さえこまれている

オ 地中に潜りこんでいる

7 本文の内容として最も適切なものはどれか。

ア 冬越しのスタイルとして、より効率的な機能を兼ね備えているのは種子よりロゼットである。

イ ロゼットという名称は、バラの花に類似していることに由来するが、ロゼットを形成する植物はあまりない。

ウ ロゼット植物にとって厳しい冬の間に得られるものはなく、冬は最大の敵であるといえる。

エ ロゼットはその短い茎から葉を出し、太くて長い根っこには栄養分が蓄えられている。

4 次の文章を読んで、1から8までの問いに答えなさい。

秋山果南は中学二年生。優等生の学級委員として、担任の新藤先生からも信頼され、みんなにも親切に対応してきた。ある日、波多野透子という転校生が来た。天才ピアニストだった彼女は事故でピアノを弾けなくなり、誰にも心を開こうとしなかった。果南は学級委員として透子に接するが、透子の心は簡単には開かない。

果南の所属する吹奏楽部のコンクールの当日、指揮者の部長が体調を崩し、指揮者不在という状況になった。果南は透子に指揮をお願いする。透子がリハーサル直前に現れ、楽譜を見たうえで、通して一回演奏することになった。

吉川先生がどこから調達してきたタクトをにぎって、透子は無言のまま、じつとスコアを眺めている。与えられたリハーサルの時間は、正味十五分くらいしかない。

「とにかく、一回、通してやってみようよ」

チューニングが終わると、長山くんが言い、透子がさりげない動作でタクトを振りあげた。フルートをかまえた果南は、指の先まで緊張が走るのを感じたけれど、いざ曲が始まってみると、透子の指揮はどこと言って変わったところもなく、なんだか拍子抜けするほどふつうだった。

（こんなものなのか……）

演奏を終えて、果南が失望にも似た感覚にとらえられたとき、透子が眉間にしわを寄せ、大きくため息をついた。

「そのこのトランペット、フォルテとピアノシモの意味、わかってんの？ もっとメリハリつける！」

いきなりタクトの先を突きつけられて、橋本くんがびくりと震えあがる。

「サックス！ 伸ばしてるとちゅうで息切れしない！ プレスの位置、気をつけて！」

「フルート！ 高音部、もっといいねいに！」

「そっちのフルートは右手小指の押さえがあまり！」

にらまれたのは果南だ。たしかに小指の押さえがあまりなるのが、前から気になっていた。でも、一回、演奏を聴いただけで、そんなことまでわかるなんて。

「ソロ担当のクラリネット！ そんな音しかだせないの？ それとも、リードが割れてるの？」

「あ……ちよつと、リードの調子が……」

長山くんが首をすくめる。

「じゃ、すぐ替えて！」

次から次へと、ほぼ全員に容赦なく指示を与えると、たちまちリハーサルの割り当て時間は終わりになった。次の学校が脇で待機しているのを見て、透子はだれよりも先に「a」ステージを降りる。

それから本番まで、休憩どころではなかった。みんな、会場の外の駐車場に集まり、注意されたところを直すのに必死だった。透子は寒いからと言って、練習にはつきあってくれなかったけれど、そのほうがよかった。ずっとそばにいられては、緊張のあまり、練習にならなかつただろう。

「こんな直前になって、今までのやり方変えちゃって、だいじょうぶなのかなあ？」

橋本くんが不安げに言う。

「何言ってるの？ こうなったら、もう波多野さんにまかせるしかないでしょ。迷ってるヒマなんかないんだから！」

弱気な橋本くんは、薫が **b** 活を入れる。薫の言うとおり、波多野透子についていくしかないのだ。

出番は最後から三番目だった。

本番のステージに上がると、果南の心臓は苦しいほどにどきどきと脈打ちはじめる。さつき、同じこの場所でもリハーサルをしたのに、客席に人が入ると、まるで印象がちがう。去年、初めてこの大会に参加したときだって、こんなに緊張しなかった。頭にはかっど血が上っているのに、指先が冷たい。このまま、思うように指が動かなかったら、どうしよう……？

いつもと同じ冷静な表情の透子が式台上がった。部員たちをぐるりと見渡すようにしてから、おもむろにタクトを振りあげる。透子の目がまっすぐ射るように果南を見た。その瞬間、果南のどきどきはぴたりと止まる。

透子の腕が振りおろされたとき、果南には、白鳥が翼を広げて、ふわりと飛び立つ姿が見えたような気がした。⁽²⁾

透子の刻むリズムがからだに浸透し、心地よい高揚感につつまれる。透子についていけば、大空のはるか高みにまでのぼりつめることができる。そんな気がした。

みんなの音がひとつになって、空気が振動するのがわかる。自分でもふしぎなくらい、なめらかに指が動く。いつの間にか、果南自身も音楽の一部になっていた。全身を流れる血が、あふれでる音に共鳴する。

音楽って、こんなにも深く、美しく、エキサイティングなものなのか――。

そうして、透子のタクトが止まった。一瞬の静寂ののち、割れるような拍手がホールに響きわたった。立ち上がって拍手する人までいる。あれはシーナ^(注4)と吉川先生と新藤先生だ。ほかに、つられてスタンディング・オベーションをする人がちらほら見えた。

果南は目頭が熱くなるのを感じた。この音を作ったのは吹奏楽部のみんなだ。でも、波多野透子がいなければ、成立しなかったハーモニー。透子はみんなに本物の虹を見せてくれたのだ。「すごく、よかった！」

薫の目にも感動の涙が光っていた。ステージから降りながら、なぜだか、みんな、ほろほろ泣いていた。平気な顔をしているのは、波多野透子ぐらいのものだ。

(中 略)

透子の姿を求めて、果南は駆けだしていた。ホールの外に出ると、あたりはもう暗くなりかけていた。前方に階段を下りようとしている後ろ姿が目に入る。果南は階段のところまで全速力で駆けていき、そこから大声でさげんだ。

「波多野透子！ あんた、やっぱり、音楽やめちゃダメだよ！ 波多野透子は音楽が好きなんだ。ううん！ 音楽に愛されてるんだよ！」

透子が足を止め、果南のほうに振りかえった。

「結果でたの?」

「ううん。知らない。でも、入賞に決まってる。だって、素晴らしかったもん」

「当然よ。このわたしが指揮したんだから」

透子がクールに言いきった。

「そうか。そうだよ。波多野透子にとっちゃ、**(3)** なんだ。しかも、こんな地味なコンクールだし」

「でも、けっこう楽しかった」

「ほんと?」

⁽⁴⁾ 思いがけない反応に胸がおどり、果南は階段を駆けおりて、透子の前に立った。

「ピアノ、ほんとにもう弾けないの? 透子なら、なんとかなるんじゃないの?」

透子が自分の目の前に両手を広げ、**(c)** 見つめた。見た目にはわからなかったけれど、透子が軽く手をにぎったとき、左手の薬指と小指がきちんと閉じないことがわかった。

「この指じゃ、どう頑張ったって、もう前と同じには弾けないでしょうね」

⁽⁵⁾ 「……………」

果南は今、初めて、透子の失ったものの重さを知った。透子には、完璧な音楽をつむぎだす能力があった。それなのに、怪けが我したことで、自分が自分に要求する水準にけっして到達することができなくなってしまったのだ。それは、どれほどの苦しみなのだろう。果南には、とうてい想像することができない。ピアノを弾いている限り、埋められないギャップに永遠にもが

きつづけなければならぬのだ。

「一番にならなきゃ、ダメなの?」

果南がきくと、透子はふつと自嘲的に笑い、そして果南に背を向けた。

「透子! それでも…………それでも、お願いだから、あきらめないで!」

夕暮れの中を去っていく背中に向かって、果南は夢中でさけんだ。

(松本祐子「8分音符のプレリユード」から)

(注1) スコア＝合奏、合唱などの各パートの譜表のすべてを、一目で見られるように配列した楽譜。

(注2) ブレス＝楽器の演奏途中での息継ぎ。

(注3) リード＝クラリネットやサクソで口が直接触れる部分に装着し、振動させることで音を出すもの。

(注4) シーナ＝果南のクラスメイト。

1 本文中の **(a)**・**(b)**・**(c)** に入る言葉の組み合わせとして適切なものはどれか。

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-------|---|-------|
| ア | a | ゆつくりと | b | ビシツと | c | ぱつと |
| イ | a | ゆつくりと | b | やんわりと | c | ぱつと |
| ウ | a | きちんと | b | やんわりと | c | じつと |
| エ | a | さつさと | b | ポンツと | c | しつかりと |
| オ | a | さつさと | b | ビシツと | c | じつと |

2 そんなことまでわかるなんて とあるが、この時の果南の気持ちとして適切なものはどれか。

ア 疑念 イ 悲嘆 ウ 憤怒 エ 驚嘆 オ 失望

3 白鳥が翼を広げて、ふわりと飛び立つ姿が見えた とあるが、この表現が表す様子として適切なでないものはどれか。

ア 自信 イ 緊張 ウ 爽快 エ 高尚 オ 無垢

4 (3) に当てはまる言葉として適切なものはどれか。

ア 一番が当たり前

イ 自分が一番大切

ウ 高い技術力が必要

エ どうでもいいこと

5 思いがけない反応に胸がおどりとあるが、その理由として適切なものはどれか。

ア 自分たちとともに、同じ吹奏楽部員として指揮者の役割を担ってくれるのではないかと思ったから。

イ 今まで心を開いてくれなかった透子が、これからは自分と仲良くしてくれるのではないかと思ったから。

ウ 透子が、再び音楽と関わることを少しでも前向きに考え始めてくれているのではないかと思ったから。

エ 自分たちのやり方や演奏に間違いがなかったということ、透子にも証明できたと思ったから。

6 「……」 とあるが、この時の果南の気持ちとして適切なものはどれか。

ア 諦めなければ何かできることがあるはずなのに、投げやりになっっている透子を腹立たしく思う気持ち。

イ 透子の優れた能力を再び生かすことに関して、何ひとつ力になれそうにない自分に失望する気持ち。

ウ 透子のもつ能力の高さゆえに備わった責任感からくる苦悩の重さに、愕然とする気持ち。

エ 透子が本当に心の底からもう一度ピアノを弾きたいと思っているのかどうかを疑わしく思う気持ち。

7 透子はふっと自嘲的に笑い、そして果南に背を向けた とあるが、この時の透子の気持ちとして適切なものはどれか。

ア 音楽に携わりその楽しさを感じながらも、以前のようにピアノを弾けないことを実感し、果南の期待には応えられない自分を情けなく思う気持ち。

イ 音楽に携わる機会を与えてくれた果南に感謝の気持ちを伝えたいがうまく伝えられないもどかしさと、納得のいく指揮ができなかったと悔いる気持ち。

ウ 地味なコンクールで結果的には指揮をしたという屈辱的な思いと、結果がまだ出ていないうちから、入賞したはずだと喜ぶ果南に対する蔑みの気持ち。

エ 指揮をしたことに対する後悔と、もしかしたらこれを機に再びピアノを弾けるかもしれないという淡い期待を一瞬でも抱いた自分に幻滅する気持ち。

8 本文から読み取ることができる果南の人物像として適切なものはどれか。

ア 相手に対する細やかな配慮はできるが、肝心なところで言いたいことが言えない、気の弱い人間。

イ 多少おせっかいい思われることもあるが、相手のことを考えて行動できる、思いやりのある人間。

ウ 改善を求められると、自分が納得できなくてもすぐにそれに応えようとする真面目で誠実な人間。

エ 楽器の演奏をする時だけでなく、普段の生活の些細なことにも感動できる、感受性の豊かな人間。

オ 透子を尊敬する一方で、部員に何の遠慮もなく注意する態度を許せないと思う正義感の強い人間。

5

次の文章を読んで、1から7までの問いに答えなさい。

言葉。言の葉。あなたの心のなかで生まれ、繁茂^{はんも}していく認識の一片ずつ。

言葉はいたるところにあふれています。そのみなもととは人の内側です。すべてそこからやってきます。口から出る前、あるいはペン先やキー操作で文字に変わる前はそこにしか棲息^{せいそく}できません。心と言葉を切り離すことはできないのです。

a、心に風が吹く時は、言葉も乱暴にそよぎます。心のなかに意地悪の種がある時は、言葉まで意地悪な色に染まります。心に温かな日溜まり^{ひだまり}があれば、言葉にもぬくもりが宿ります。また、逆も言えるかもしれません。言葉を明るくしてやれば、心も明るくなっていくはず。哀しい時は歌いなさい。つまらない時は楽しい話をしなさい。そうすれば心にも元気がよみがえるよと、多くの人が主張していますね。

正しい見方だと思えます。プチ革命も実はその原理ののっとなります。ただ、目的^①はそこではありません。流行の自己啓発を目指すものではないのです。世間的には明るい人の方が好かれるのでしようが、人には持って生まれた性格があります。個として生きることに立ち戻り、自分の土地を見つけて開拓していくのですから、わざわざ自身を変えようとしなくてよいのです。

b、自己変革をしようなどという考えは捨ててもらった方がいいとボクは思っています。昨日と違う自分という言葉はいかにも前向きですが、処世術^{（注）しよせいじゆつ}や行動が変わることはあっても、人の中身はそう簡単には変わらないものだ。とボクは思っています。

す。この世に生まれてきた自分を最大限に花咲かせること。そのためには自分を否定して変えようとするのではなく、あるがままに受け入れてやることから始めた方がいいと思うのです。無理に明るく振る舞うことも、善人を目指す必要ありません。自身の内なる世界で息づいている言葉の森。これをしっかりとらえ直すことが始まりです。

つまり、プチ革命のために心を見つめるとは、自身が使う言葉についてあらためて目を見開いていく行為を意味します。これがプチ革命の入り口です。そこから革命の準備は始まります。

(中略)

日本には、雨に対する呼び名がたくさんありますね。「霧雨」^{きりさめ}「こぬか雨」「にわか雨」^{なみだれ}「五月雨」^{さみだれ}「お天気雨」「夕立」「通り雨」「ゲリラ豪雨」といったふうです。雨が多く、四季に恵まれた国土だけに、ボクらはその区別がつくのです。だからこれだけの呼び名が生まれました。では、欧米ではどうでしょう。たとえばカリフォルニアやニューメキシコで「雨の表現はいくつありますか?」と訊いても、それはあまり意味をなさない問いになるはず。まったくもって、あちらでは雨は雨でしかありません。せいぜいが「ヘヴィー・レイン(激しい雨)」や「シャワー(にか雨)」といった程度。言い方はありますが、雨に対する(2)化がない土地では、その言葉数もぐっと減るのです。

宮沢賢治が雲をどう表現しているか。かつて草野心平がそれをまとめたことがあります。ここですこし引用しますと、「氷

河が海にはいるように白い雲のたくさん流れは枯れた野原に注いでいる」「向うの縮れた亜鉛の雲へ」「雲はたよらないカルボン酸」「雲には白いところも黒いところもあつてみんなぎらぎら湧いている」「白い輝雲のあちこちがぎれて、あの永久の海蒼がのぞいている」「雲はみんなリチウムの赤い焰をあげる」「雲の累帯構造の継ぎ目から一切れのぞく天の青」「燃え上がる雲の銅粉」「日はいま羊毛の雲に入ろうとして」「やまなしの匂いの雲」「蛋白質の雲は遥かにたたえ」「蒼鉛色の暗い雲からみぞれはびちよびちよ沈んでくる」……ああ、もう、詩人の目にはどれだけの種類の雲が現われたのでしょうか。おそらく宮沢賢治にとつては、目にする雲はすべて違う雲であつて、それは一回性の命との出会いでもありました。すべてに差異があり、だからこそそれぞれの形容になったのです。一般の人はしかし、いわし雲と入道雲程度の区別はついたとしても、ここまではいかないでしょう。

ア。まさに、(3)が言葉を生むみなもとであるわけですから、差異は初めから対象に用意されているものなのでしょうか。

そうだとも言えるし、そうではないとも言えそうです。**イ**。たとえば、並木を考えてみてください。あなたの家のそばにも並木がありますよね。ケヤキやサクラのように、樹木の名ぐらいはあなたにもわかると思います。でも、それ以上のことになるとどうでしょう。**ウ**。あなたは毎朝、何本の木に出会いますか? そのそれぞれの区別がわかりますか? たとえば並木の一本だけを取り出したとして、それがどこに植えられていた木なのかわかるでしょうか。

おそらくは「いいえ」という答えが返ってくるでしょう。

工。

並木全体は認識できても、その一本ずつは区別していないはず
です。すべての木は形が違うのに、差違をとらえられていない。
物体としての分け隔てがないのです。独立していいない。だから
一本ずつに対しては呼び名もない。

オ。

しかし、これが並木ではなく、人間だったらどうでしょう。
木の代わりに人が立っていたら？ いえ、そこまで考えなくて
も、入学や転校で新しい仲間たちと出会った時のことを思い出
して下さればけっこうです。何十人、あるいは何百人もの新し
い仲間たちが現われた時、最初はだれがだれだと区別が付きま
せんから、当然、名前も覚えられません。しかし、数ヶ月もす
れば、すくなくともクラス全員の名前ぐらいはわかるようにな
るものです。それは等しく、全員の差異がわかるようになった
からだとも言えるのです。

周囲のものや事象、それぞれに対する差異の発見。それが形
状からくるものであれ、性質からくるものであれ、言葉が誕生
したのはまさにその部分からです。一見、言葉はものへの「対応」
にその由来を持っていそうなイメージですが、もともと根本的
なところは認識上の「違い」であり「差異」であったのです。

(中略)

ボクらの胸にある言葉の森は、さまざまな経験によって一本
ずつ木々が増え、徐々に大きくなってきたものです。親が教え
てくれた言葉。友達と遊ぶなかで覚えた言葉。好きな小説で知っ

た言葉。参考書で一生懸命に覚えた言葉。本当に必要なのかと
疑いながらもひとつでも多く覚えようとした英単語などもそう
です。

プチ革命は、この言葉の森に、あえて自分で選んだ一本の木
を植えてみるという行為が始まりとなります。意識的に、自分
の好きな木を植えるのです。

ここが肝心なところですよ。

受け身で覚えるのでもない。勉強だからと仕方なく頭に入れ
るのでもない。自分の好きな木を植えて、心のなかに言葉の葉
を繁らせていくのです。

(ドリアン助川「プチ革命言葉の森を育てよう」から)

(注1) 処世術 || 生きてゆく術策。

(注2) 草野心平 || 詩人。

(注3) 輝雲 || 宮沢賢治が雲を表現するために用いた独自の言葉。

(注4) 海蒼 || 宮沢賢治が雲を表現するために用いた独自の言葉。

(注5) 累帯構造 || 不連続な帯状構造。

(注6) 蒼鉛色 || やや赤みを帯びた銀白色。

1 本文中の「a」・「b」に入る語の組み合わせとして適切なものはどれか。

- ア a しかし b ところで
- イ a だから b むしろ
- ウ a では b やはり
- エ a だから b なぜなら
- オ a しかし b また

2 目的はそこではありません⁽¹⁾ とあるが、筆者が考えている「目的」として適切なものはどれか。

- ア 達成可能な目標を設定し、意欲的に取り組んでいくこと。
- イ 語彙力を高めることで、さまざまな状況に対応していくこと。

ウ 人それぞれの個性を重視し、できるだけ生かしていくこと。

エ 世間に順応し受け入れられやすい自分を形成していくこと。

3 「(2)」に当てはまる言葉として適切なものはどれか。

- ア 抽象
- イ 可視
- ウ 一体
- エ 擬人
- オ 細分

4 「(3)」に当てはまる言葉として適切なものはどれか。

- ア 衝動的な感情
- イ 差異がわかること
- ウ 感受性の豊かさ
- エ 専門知識の獲得
- オ 科学への興味

5 これが並木ではなく、人間だったらどうでしょう⁽⁴⁾ とあるが、筆者がこの例を通して言いたいこととして適切なものはどれか。

ア その名前がつけられた理由より、その名前を覚えるという作業が大きな役割を担っているということ。

イ 人を人として尊重するように、どんな自然に対しても同じように敬意をはらって接するべきだということ。

ウ 一人ひとりの人間に対してはその違いを見出すことで、それぞれの呼び名を結びつけていくということ。

エ 樹木はその形がほぼ一定であるが、人は個体差が大きいので一人ひとりの区別がつけられるということ。

オ それぞれの個性を把握するにはもっと心に余裕が必要であるが、現代人にはその余裕がないということ。

6 本文中の「ア」～「オ」のいずれかに、次の一文が入る。最も適切な位置はどれか。

これもまた、ボクらの内側が「差異がある」と、とらえられるかどうかにかかっているようなのです

7 次の会話は、本文の内容について生徒A～Dが話し合っている場面である。この会話を読んであとの(I)・(II)の問いに答えよ。

A 「それぞれの心の中にある言葉の森は、能動的な経験と受動的な経験の両方によって、育ってきたものなんだね。」

B 「日本には、雨に対する呼び名がたくさんあることを示して、日本語の知識を理解することの重要性を強調しているよ。」

C 「樹木の名で大きな区別ができているということは、言葉はそれらの差異に気づかなくても習得できているということだよ。でも、樹木一本ずつの区別ということになるとわからないな。」

D 「プチ革命を実行するには、まず自分の心を見つめるために自身が使う言葉についてあらためて目を見開いていき、が必要だね。」

(I) 生徒A・B・Cの発言のうち、本文の内容として適切でないものはどれか。

(II) に当てはまる言葉として適切なものはどれか。

A ものごとの相違点をおさえ、興味関心を持つて学んでいく
I より多くの人が使う言葉を優先して調べ、身につけていく
ウ それぞれの言葉の由来や歴史から、その語源を追究していく

工 変化していくものごとに合わせて、自分自身を変えていく

令和5年度 県北オープン解答用紙 国語 第1面

受験番号			
①	①	①	①
②	②	②	②
③	③	③	③
④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨

フリガナ	
氏名	

中学校名	
	立
	中学校

注意事項

- HBまたはBの鉛筆(シャープペンシルも可)を使って○の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残してはいけません。
- 所定欄以外にマークしたり、記入したりしてはいけません。
- 汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

5	良い例	悪い例		
●	① 線	● 小さい	✖ はみ出し	
	○ 丸囲み	✖ レ点	○ うすい	

6 問題番号 **5** の解答欄は、この用紙の第2面にあります。

解答教科	
●	国語
○	社会
○	数学
○	理科
○	英語

1	解答欄
1 (1)	ア イ ウ エ
(2)	ア イ ウ エ
(3)	ア イ ウ エ
(4)	ア イ ウ エ
(5)	ア イ ウ エ
2 (1)	ア イ ウ エ
(2)	ア イ ウ エ
(3)	ア イ ウ エ
(4)	ア イ ウ エ
(5)	ア イ ウ エ
3	ア イ ウ エ
4	ア イ ウ エ
5	ア イ ウ エ
6	ア イ ウ エ
7	ア イ ウ エ

2	解答欄
1	ア イ ウ エ
2	ア イ ウ エ
3	ア イ ウ エ
4	ア イ ウ エ
5	ア イ ウ エ
6	ア イ ウ エ
7	ア イ ウ エ

3	解答欄
1	ア イ ウ エ オ
2 (I)	ア イ ウ エ オ
(II)	ア イ ウ エ オ
3	ア イ ウ エ オ
4 (I)	ア イ ウ エ
(II)	ア イ ウ エ
5	ア イ ウ エ
6	ア イ ウ エ オ
7	ア イ ウ エ

4	解答欄
1	ア イ ウ エ オ
2	ア イ ウ エ オ
3	ア イ ウ エ オ
4	ア イ ウ エ
5	ア イ ウ エ
6	ア イ ウ エ
7	ア イ ウ エ
8	ア イ ウ エ オ

解答用紙 国語 第2面

注意事項

- 1 HBまたはBの鉛筆(シャープペンシルも可)を使って○の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 2 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残してはいけません。
- 3 所定欄以外にマークしたり、記入したりしてはいけません。
- 4 汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

5	良い例	悪い例		
	●	① 線	② 小さい	③ はみ出し
		④ 丸囲み	⑤ レ点	⑥ うすい

- 6 問題番号 1234 の解答欄は、この用紙の第1面にあります。

5	解答欄
1	ア イ ウ エ オ
2	ア イ ウ エ
3	ア イ ウ エ オ
4	ア イ ウ エ オ
5	ア イ ウ エ オ
6	ア イ ウ エ オ
7 (I)	A B C
(II)	ア イ ウ エ